平成１５年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ホッコクアカエビ

学名　*Pandalus eous*

系群名　日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特徴

寿命：　11年

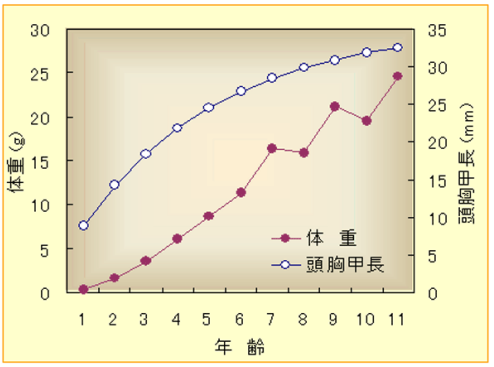
成熟開始年齢：　雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳

産卵期・産卵場：　2～4月で隔年産卵、成長に伴い400～600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う、産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200～300mで幼生の孵出を行う

索餌期・索餌場：　主分布域と同海域

食性：　微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトライタス等

捕食者：　マダラ、スケトウダラ等の底魚類

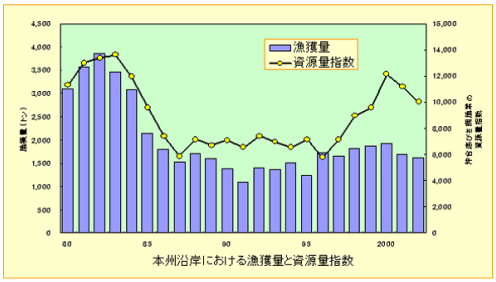


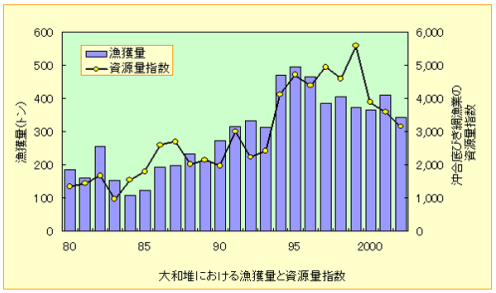
漁業の特徴

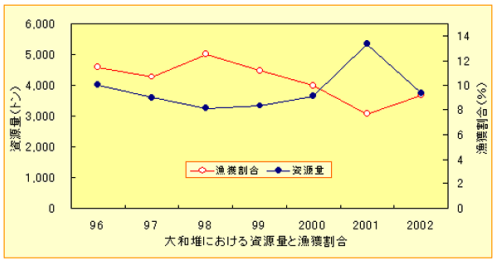
鳥取県～北海道沿岸の水深200～950mの深海底に生息し、分布の中心は200～550mにある。沖合底びき網、小型底びき網、かご網によって漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,118トンをピークに減少傾向にあったが、1995年以降は2,000～2,200トン台で推移し、2002年は約2,000トンとほぼ横ばいで推移している。漁場の中心は水深500mで、特に能登～若狭湾を中心とする日本海中部海域と、隠岐堆、新隠岐堆を含む山陰沖及び大和堆が主要な漁場となっている。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟、福井である。



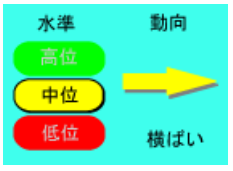




資源評価法

漁獲の50～60%を占める沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書をもとに、海区別の資源量指数及び漁獲量の推移を基礎とした。また、能登半島以西の本州沿岸及び大和堆については、調査船による採集結果をもとにそれぞれ資源密度と資源量を試算し、その動向を調べた。

資源状態



有効漁獲努力量が減少傾向にある中、近年の漁獲量は過去最低だった1991年よりかなり回復した値で横ばいに推移している。加えて、沖合底びき網の資源量指数は最近2年間は減少しているものの、1990年以後は増加傾向にあり比較的高い水準にあることから、本種の資源は比較的良好な状態で安定していると判断される。また、調査船による能登半島以西の本州沿岸の資源密度が過去に比べて比較的高く、大和堆における資源量が安定し漁獲圧は10%以下と低いと推定された。

管理方策

近年の漁獲量が横ばい、かつ主要な漁業種類である沖合底びき網漁業の資源量指数が比較的高い水準でほぼ安定していることに加えて、本州能登半島以西の資源密度および大和堆の資源量がそれぞれ増加しもしくは横ばいであることから、現状の資源水準を維持することを管理目標とした。平均漁獲量および安全率0.8を考慮してABCを算定した。

	2004年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	22百トン	Cave5-yr	-	-
ABCtarget	17百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 主要な漁場である本州沿岸において、1995年以降資源量指数がほぼ横ばい傾向にあり、資源状態は中位水準横ばいで比較的安定して推移している
- 本州沿岸の資源密度および大和堆の資源量推定結果も増加もしくは横ばい傾向で、資源の状態は良好といえる

資源管理方策のまとめ

- 管理目標は、現在の資源状態を維持

資源評価は毎年更新されます。